

冬の寒さに耐えた桜がやわらかな春の日差しに芽吹きはじめた今日の佳き日、岡山県教育委員会 保健体育課長 山本圭司 様、岡山県議会議員 内山登 様をはじめ、多数のご来賓の皆様方をお迎えして、卒業生の門出をかくも盛大に祝福できますことは、このうえない喜びであります。深く感謝申し上げます。

ただ今卒業証書を授与された一〇八名の皆さん、ご卒業おめでとうございませす。本校での二年間、各教科や総合的な学習の時間「閑谷學」の定められた単位を履修・修得しつつ、部活動や生徒会活動、ボランティア活動、社会貢献活動などに積極的に取り組み、めでたく卒業証書を手にされました。一人ひとりの努力が実り報われたことを心から祝福いたします。

同時に、みなさんの努力は、温かい愛情をもって支えてくださったご家族の皆様、中学校までにお世話になった先生方、数々のご支援をいただいた同窓会や地域の皆様、そして、助け合い励まし合った同級生や後輩など、多くの方々の方々の支えがあったからこそ実ったことに思いを致してほしいと思います。

ご家族の皆様におかれましては、これまでの長きにわたって支えてこられたご苦勞が報われ、感無量のことと拝察いたします。心からお慶び申し上げますとともに、本校の教育に多大のご理解・ご支援をたまりませんでしたことに、厚くお礼申し上げます。

さて、卒業される皆さん、一八歳以上が選挙権を持つようになって四年目を迎えます。さらに、三年後の四月からは、成人年齢が現行の二〇歳から一八歳に引き下げられます。高等学校を卒業するということは、子どもの殻を破って大人に脱皮することと同じ意味になります。

では、皆さんは、どんな大人になりたいですか？

皆さんが大人として責任を負っている日本の社会は、課題が山積みです。人口減少が世界に先駆けて進み、人手不足や税収の落ち込みを招き、貧困や介護の問題が深刻化しています。景気が上向いている感覚もあまり感じられず、賃金が伸び悩む中で物価が上がり、消費を控えることが必要と認識される状況から抜け出せないというのが多くの日本人の普通の感覚ではないでしょうか。子どもの虐待などの痛ましい事件が相継ぐのも不安定な世情を映しているのかもしれない。

一方、他国との関係も穏やかではありません。米国の安全保障の傘の下に居続けようとする国の政治と県民投票の意志を尊重しようとする沖縄県の政治とがちぐはぐになっていて他県の我々も心を痛めています。隣国の韓国やロシアとの関係も予断を許しません。

このような不安定な情勢の中、大人として、どのような心のもち方が必要とされるのでしょうか。旅立つ皆さんに、三つの言葉を贈ります。

一つは、「出会う人は自分の鏡になる」ということです。米国の教育学者のドロシー・ロー・ノルトの詩『子は親の鏡』から少し紹介します。

けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる

とげとげした家庭で育つと、子どもは、乱暴になる

不安な気持ちで育てると、子どもも不安になる

「かわいそうな子だ」と言って育てると、子どもは、みじめな気持ちになる

子どもを馬鹿にすると、引っ込みじあんな子になる

親が他人を羨んでばかりいると、子どもも人を羨むようになる

叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう

励ましてあげれば、子どもは、自信を持つようになる
広い心で接すれば、キレル子にはならない

これは家庭教育の秘訣が書かれた詩ですが、出会った人との関係を築く秘訣として広くとらえる
ことができます。自分の振るまいや心の持ち方によって相手も変わるといことです。出会う人を自
分の鏡として大切にしてください。

二つ目は、「ピンチをチャンスとして楽しむ」ということです。

職場や地域で現状と理想のギャップに直面することはだれしも経験することです。思うようにい
かない、ふがいない自分に直面した時、「どうせ自分はダメな人間だ」と諦めるか、「天の神様、自分
に試練を与えてくれてありがとう」と感謝するか、その心の持ち方で人生はずいぶん違ったものにな
ると思います。皆さんは、閑谷學を通して身近な課題を発見し、その解決策を練ってきた貴重な経験
があります。ピンチこそ成長のチャンスと考えて自分の可能性に挑戦してください。

三つ目は、「人を思いやる」ということです。

クラスの仲間のために最後まで声を枯らして応援した球技大会、ビリになってもバトンを受け継
いで力の限り走り続けた体育祭、商店街の活性化のために創意工夫した駅前イルミネーション点
灯式、自主的に取り組んだ中学校の放課後学習支援ボランティアや七月の豪雨災害復旧ボランティ
ア、数々の社会貢献活動など、皆さんは数え切れないほど「人を思いやる」ことを実践してきました。
困っている方に進んで手を差し伸べてお礼の電話やメールをいただいたことも一度や二度ではあり
ません。

「人を思いやる」ことを論語では、「恕」と言います。旅立ちの前に、もう一度みんなで朗誦しま
しょう。卒業生をはじめ、在校生も本校教職員も、またご来賓やご家族のみな様も私に続いてよろし
くお願いいたします。

「子貢問ひて曰はく、一言にして、以つて身を終うるまで、之を行ふべき者有りや。子曰はく、
其れ恕か。己の欲せざる所を人に施すこと勿れ。」

名残は尽きませんが、今日は旅立ちの日です。創学三四八年という、日本随一の歴史と伝統を持つ
和気閑谷高等学校の卒業生としての誇りと気概をもって未来を切り拓いていってください。

結びにあたり、卒業される皆さんのご活躍とご多幸をお祈り申し上げますとともに、卒業していく生
徒のためにお忙しい中貴重なお時間をお繰り合わせいただき、ご臨席を賜りましたご来賓並びにご
家族の皆様方に今一度心からお礼を申し上げ、式辞といたします。

平成三十二年三月一日

岡山県立和気閑谷高等学校

校長 香山 真一